

感謝

— 創業 30 周年 式典 を 終 えて —

去る9月3日徳真会グループ創業30周年の式典を開催させて頂きました。

当初4月16日の創業記念日に式典を予定しておりましたが、東北大震災の直後で、多くの被災者の方々がおられる中、また、福島原発の状況もはっきりしない中での開催は適切でない判断し、9月3日まで延期させて頂いたものでした。会場は、国内外よりおいで頂く御来賓の方々の利便性を考え、東京での開催とさせて頂きました。

個人的には余り華やかな式典は好みませんが、30年という歳月は私にとっても組織にとっても一つの大きな節目でもあり目標でもありましたし、今日までお世話になった皆様への感謝の会として開催させて頂きました。

式典に御案内出来なかった方々も含め、徳真会を御支援頂き育てて下さった皆様に、改めて感謝申し上げます。

私が縁もゆかりもない新潟県旧新津市の町はずれの住宅地の一角で、松村歯科を開業したのは30年前の1981年4月16日でした。

開業以来どうすれば患者さんは納得して帰って頂けるかを考え続け、自己の技術とスタッフの育成に没頭し続ける中で「理念」を書き上げ、日々葛藤していた「創業期」…

新たな歯科医療のあり方を模索し、県内から全国、そして世界へと組織が広がっていった「挑戦期」…

そして、国家依存度の少ない組織運営を志し、新たな組織運営創造の具現化を目指している「自立と創造期」…

徳真会の30年の歴史は、こうしたそれぞれのテーマが互いに重なり合いながらも、絶対的目標である「理念」に、まだまだ届かない「現状」をどう近づけるかの試行錯誤の歴史でもありました。

創業10周年を迎える頃、宮本武蔵の「五輪の書」の水の巻に有る

千日の稽古を「鍛」とし

万日の稽古を「錬」とする

という言葉を読み、

千日とは約3年

万日とは約30年…

そう考えれば、組織創りも30年は鍛錬の時代だと認識し、この頃より、

10年偉大なり

20年恐るべし

30年歴史を創る

という言葉を折りにふれて使う様になりました。

30年を経過した今日、まだまだ歴史を創ったとは全く思っておりません。

むしろ組織として取り組むべき課題も山積している現状を、改めて認識しております。

この30年という歳月の中でも、世の中の返遷を見るにつけ、常に変化し続ける時代と人々の価値観に対して、国内最大の歯科医療機関としての責務として、時代先駆の歯科医療を提供する努力を実践し続けてゆく必要性を強く感じております。

そして我々日本の医療機関が、世界のトップランナーであるべき気概を持って、今後も時代先駆の組織創りを行なつてゆく決意を新たにしております。

今後共、皆様の御指導を宜しくお願い致します。

合掌

徳真会グループ 理事長 松村 博史



民主党 衆議院議員
前原誠司先生

山下泰裕先生
記念講演



回サンジェルスオリンピック金メダリスト
東海大学体育学部長 山下泰裕先生



加賀屋 小田禎彦会長



橋幸夫さま



写真家・映画監督
紀里谷和明さま



第69代横綱の白鵬関



理事長夫妻 挨拶



伏見工業高校ラグビー部
元総監督 山口良治先生



東京医科歯科大学
名誉教授 石川烈先生



エベレスト世界最高齢
登頂者 三浦 雄一郎さま

